

理事長ごあいさつ



平成28年熊本地震、東北・北海道水害により被災された皆様には、謹んでお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

JAMSTECでは、私どもの持つ研究・開発資源を有効に活用し、復興そして防災・減災に貢献できるよう精一杯努めてまいります。

2016年は、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの鮮やかな記憶とともに、日本においては、地震・水害の年として記憶されるでしょう。

リオにおける日本選手の健闘、そして、これをサポートした多くの人々、その瞬間を真剣に生きる姿が我々に感動と力を与えてくれました。地震・水害と闘う人々、悲しみのどん底から立ち上がる人々、私たちもまた、彼等とその想いを一緒にして、私たちの使命を果たしていくことを心に誓いました。

現在、私たちの世界には様々な課題が山積しています。人々の生活圏の急速な拡大は、従来では考えられない場所や規模での災害を引き起こしています。

人間の活動は地球を変える規模となり、現在の大気中CO₂濃度は400ppmを突破し、これは産業革命以前の平均的な値とされる278ppmと比べますと44%増加していることとなります。温室効果ガスを原因とする地球温暖化・それに伴う極端気象現象、生態系の激変、等の問題は、今、我々人類にとって最も憂慮すべき世界的な課題の一つとして存在しています。

JAMSTECは、海洋・地球・生命の統合的理解を目指し、その成果に基づき、地球規模での課題解決のため、また、我が国の安全・安心を確保するため、そして、人間の生き方そのものを変えるために、研究機関としてのミッションを果たして参ります。

また、組織の取組みとしても、地球温暖化対応への貢献を実施してきました。2015年12月に第21回気候変動枠組条約締約国会議（COP21）で採択された「パリ協定」では、今世紀後半に温室効果ガスの実質的排出ゼロを目指すこととなりました。そして、我が国が2015年7月に国連気候変動枠組条約事務局に提出した「日本の約束草案」は2030年の温室効果ガスの排出量を2013年比で26.0%削減するというものであります。

翻って私どもJAMSTECの環境に係るパフォーマンスを見てみますと、2015年度の二酸化炭素排出量は、JAMSTECが保有するスーパーコンピュータである「地球シミュレータ（ES）」の更新を行ったこともあり、前年度比

で約14%の削減を達成することができました。JAMSTECではこのESと研究船において多くのエネルギーを消費し、主たる二酸化炭素の発生源となっており、併せて多くの二酸化炭素を排出しておりますが、今後とも我が国、ひいては世界の温室効果ガス削減目標に貢献できるよう、引き続き効果的な環境配慮活動を推進して参る所存です。

さて一方、安全に関する取組みにつきましては、昨年度の報告書において申し上げたとおり、JAMSTECでは一昨年度に小火等の火災に繋がりがねない事象が数件発生致しました。そこで私どもは様々な対策を講じてきたところであり、結果として昨年度は実験室内で発生する事故・トラブルの発生件数を0件とすることができました。これにつきましては、JAMSTEC職員の安全に対する意識がより向上した成果と思われませんが、昨年度の事故・トラブルの発生件数は一昨年度と比べ減少はしているものの研究船上での怪我など全ての事故・トラブルを無くすまでには至っておりません。JAMSTECではこれまでに無人探査機「かいこう」のピークル亡失事故（2003年5月）や学術研究船「淡青丸」からの海中転落事故（2008年4月）など重大な事故・トラブルを経験しておりますが、再度これらの事象を想起・教訓としてゼロ災害を追求し、様々な方法により安全・安心な職場環境を形成して参ります。

「JAMSTEC安全・環境報告書」は、「環境報告書」の時代も含め、お陰様をもちまして今回で11回目の発行となりました。この10年余を振り返りますと、年を経るに従いJAMSTECの安全・環境に関する諸活動も充実してきたものと思われれます。しかしながら、未だ至らない点も多々あるため、そのような点を謙虚に受け止め、安全・環境を始めとするあらゆる分野において内在する諸問題を改善するとともに自ら範を示せるようこれからも日々精励し、更には、社会のニーズにお役に立てるよう精一杯取組んで参りますので、皆様におかれましては、今後とも一層のご支援・ご協力を賜りたく心よりお願い申し上げます。

平成28年9月

国立研究開発法人海洋研究開発機構

理事長 平 朝考